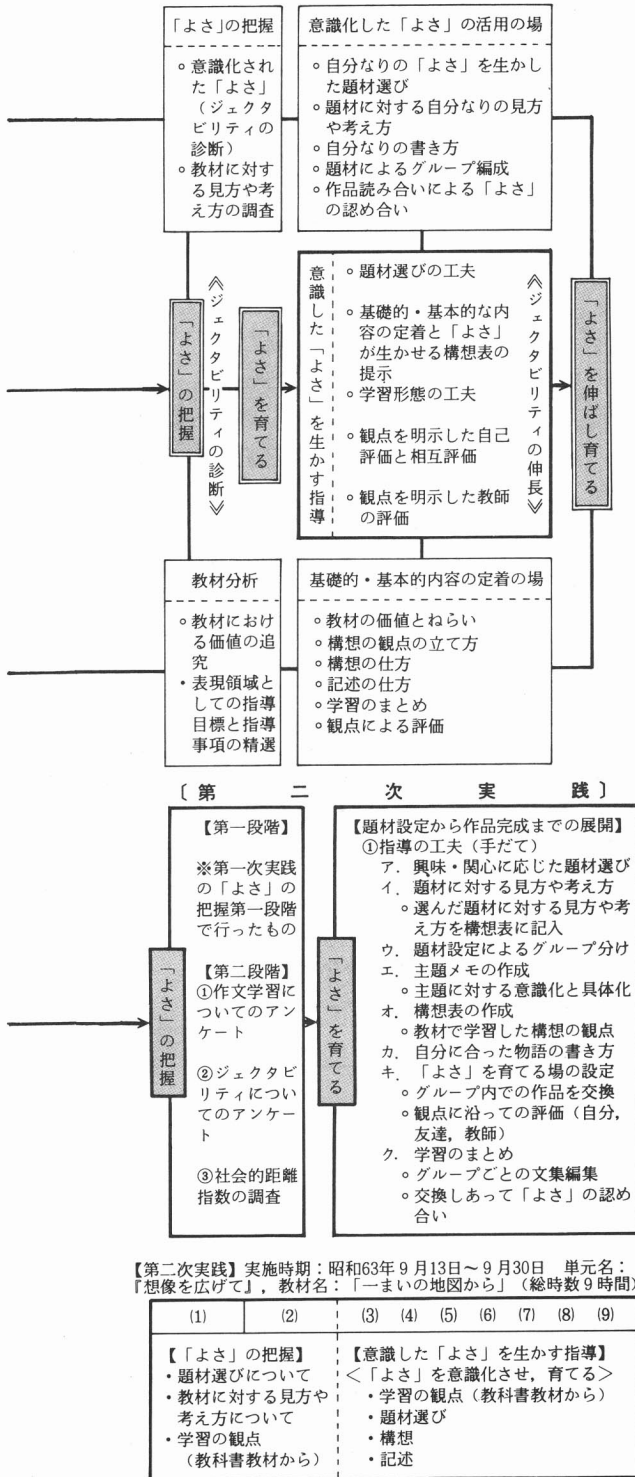


3. 国語科における実践研究の内容

実践研究の構想を受けて、単元二つ（第一次、第二次実践）を通して具体的な手だてを講じながら実践をした。その内容を50ページから55ページにかけて示した。



(1) 「よさ」を把握し、生かし、意識化させる指
 第一次実践「楽しく読もう」の指導計画を示した。「よさ」の把握、「よさ」を生かす指導、発展教材の自己選択、「よさ」の意識化についての各段階である。指導の手だてと児童の活動結果を各指導の段階に応じて載せた。(50ページ)

(2) 相互交流による「よさ」の意識化
 本実践研究で特に大切だと思われる、「よさ」の意識化の場面として、12時間目の指導過程を示した。更に、「よさ」の発見の具体的な児童の活動結果を載せた。(51ページ)

(3) 「よさ」を意識化させ、育てる指導
 第二次実践「想像を広げて」の指導計画を示した。「よさ」の把握、「よさ」を生かす指導、「よさ」の意識化についての各段階である。指導の手だてと児童の活動結果を各指導の段階に応じて載せた。(52ページ、53ページ)

(4) 「『よさ』を育てる個人カルテ」の累積記録
 単元を通して、「よさ」の把握、「よさ」を生かす指導、「よさ」の意識化の指導において、基礎的・基本的な内容の定着を図り、「よさ」を生かし、意識化させるために児童の活動を「個人カルテ」に累積記録し、その活用を図りながら指導に反映させた。

① 第一次実践「楽しく読もう」を通して
 ② 第二次実践「想像を広げて」を通して
 二つの単元の実践で、活用した個人カルテF.S児の結果を載せた。(54ページ、55ページ)

③ 社会的距離指数の変容
 三回にわたって調査した、社会的距離指数の変容(F.S児)を示した。(54ページ)